

# 平成27年度事業報告書

特定非営利活動法人 アニマルクラブ石巻

## 事業の成果

「捨てられる命を生ませないためには、呼びかけだけでは届かない。費用がネックになっているのだから、低価格で実践する動物病院があれば、着実に進められるだろう」と、2008年4月に、週1回の開院でスタートした『不妊予防センター』は、カルテの番号が4000を越しました。

東日本大震災があった年も、ショッピングモールの動物病院を間借りして、5月から営業を再開して、被災動物の治療にあたったこともあり、存在はどんどん知られるようになりました。電話やメールでの相談も次々来るようになりました。「野良猫のことで悩んでいる人がこんなにも多いなんて…」という現実、子供たちに『弱き者には思いやりを』と教え、天災やテロのニュースが報じられる度に『誰の命もかけがえなく尊い』と掲げておきながら、『野良猫にエサやり禁止』と回覧板を回す《コミュニケーションが閉塞して、理想より守りが優先されている社会》を痛感させます。飢えた猫に餌を与える人情を否定するのではなく、「エサを与えているだけではどうなるか？」を想定して対処するのが、人間の知恵だと思います。

相談者のタイプは①触れないから手が出せないでいた人と、②経済的に費用の捻出が難しい人に大別されます。①のタイプの人の中には、「避妊手術を受けさせなくては…と考えると、動物病院に問い合わせたが、洗濯ネットに入れて連れてきて、と言われて断念した」というような方々もいます。触れないのですから、そんなことはできる筈がないのです。捕まえようと深追えば、ある程度までは近づいていた関係も遠のいてしまいます。

猫の習性を知り、扱いに馴れている我々がアドバイスして、警戒されずに身柄を確保する《保護器》を使うことで、確実に避妊・去勢手術を進めています。術後の管理のためにケージの貸し出しや、車のない人のために、送迎も実施しています。なので、アニマルクラブの不妊予防センターで手術を受けた人の紹介で、また別の野良猫に関わっている人が申し込んで来ることも多いです。

②のタイプの方は、震災後に増えた、と感じています。津波で飼い主とはぐれたり、高台などに避難した猫が繁殖した、という話をあちこちで聞きました。一方、人間の方も震災により家や仕事を失って、生活が苦しくなった人達も多く、「可哀想でエサをあげていたら子供を生んでしまった」と、猫が繁殖して5.6匹、中には10匹以上にも増えてしまってから、「このままでは大変」と慌て出すので、費用も多額になってしまうのです。通常の半額ほどの価格設定をしている当センターであっても、頭数が多ければ費用は多額になってしまいます。目的は営利ではなく、不幸な命が増えないことなので、「生んで増えたらもっと大変になるから、生む前に手術しましょう」と、支払いは後払い・分割でも引き受けています。

野良猫に限らず、飼い猫も仮設住宅やアパートで20匹前後まで増やしてしまっていた人達もいました。避妊手術やワクチン代が出せなくて、猫を増やして感染症を慢性化させる悪循環に陥っていました。エサ代で精一杯の生活をしているので、分割払いを約束しても支払いが滞り、現実的には払えないのです。

一つ一つの問題に、「どうすることが、ここにいる猫(犬)のためになることか？」と考えて、できる限りのサポートを続けていますので、不妊予防センターの事業は盛況で、成果もあげている一方で、経済的にはひっ迫してきています。獣医師を確保するのも年々難しくなっている状況もあるので、センターの存続も、アニマルクラブの活動すらも、いつまで続けられるか、わかりません。アニマルクラブには80匹以上の猫と犬がいて、その生活費の確保が、第一優先となります。2015年3月末の繰越金は100万円余り。2ヵ月もすれば使い切ってしまう金額なので、《役員立替金》を投じていますが、立替られる金額にも、勿論限度があります。

ワクチンや不妊手術や治療を施した後、人馴れしている猫や犬は里親さん宅に引き取られています。次々生まれる子猫がカラスの餌食になったり、感染症や交通事故で死んで、生き残って成長した猫がまた子を産んで増えて、悪循環が増大していた野良猫のたまり場には、TNR（捕獲して、不妊手術して、元の場所に戻す）を進めています。

相談が多くなり、1日の殆どの時間が活動のために費やされています。「辛い、疲れた」という弱音や不満は、「助けられた、幸せになった！」という成果で乗り越えられることもあります。しかし、無給のボランティア活動なので、他に仕事をしてお金を得なければなりません。アニマルクラブ自体の経済力が乏しくなってくると、さらに個人の負担金が増えてくるので、経済的な重圧に耐えられなくなったら、ボランティア活動も続けられなくなります。

払えない人に返済の請求をしても、期待はできません。資金は、活動に賛同してくれる方々からの寄付に頼っている現状です。ホームページなどで、リアルタイムでアニマルクラブが関わっている問題を発信して、それを応援してくれる人々に支えられています。我々が生活を費やして対処している社会問題に、やがて行政がきめ細かく対応してくれる日が来るまで、持ちこたえられるかどうかはわかりませんが、資金がやりくりできるところまで歩みを続けていこうと思います。